

**令和元年度第2回石巻地域産業人材育成・定着推進会議
参加者発言要旨**

開催日時：令和2年1月29日（水）午後2時～午後4時30分
開催場所：宮城県石巻合同庁舎201・202会議室

1 会議の趣旨

石巻地域の課題となっている「人材育成・定着」に関連する議題について、産業・教育・行政（石巻地域産業人材育成プラットフォーム構成機関及び管内高等学校）の実務担当者で情報共有及び有効な取組内容等について意見交換を行い、人材育成・定着に向けた取組の推進を図るもの。

2 出席者

【産業】

石巻商工会議所	地域・人づくり支援課長補佐	大槻 清勝
東松島市商工会	副参事	高橋 広史
女川町商工会	主査	笠原 悠平
石巻信用金庫	人事部長	西條 育朗

【教育】

石巻専修大学	事務部次長・事務課長	高橋 郁雄
宮城県石巻工業高等学校	教諭	荒井 章展
宮城県石巻商業高等学校	教諭	志茂 寿朗
宮城県石巻商業高等学校	連携コーディネーター	西塚 久良
宮城県石巻北高等学校	教諭	楯石 誠晃
宮城県石巻北高等学校飯野川校	教諭	大橋 孝幸
宮城県石巻北高等学校飯野川校	連携コーディネーター	本木 由紀子
宮城県水産高等学校	教諭	油谷 弘毅
宮城県石巻西高等学校	教諭	齋藤 訓子
宮城県東松島高等学校	教諭	磯部 洋
石巻市立桜坂高等学校	教諭	小山 信
宮城県立支援学校女川高等学園	教諭	鶴田 幸喜
宮城県立石巻高等技術専門校	副校長	平間 弘和

【行政機関】

石巻公共職業安定所	統括職業指導官	後藤 慶志
石巻市産業部	商工課 主任主事	植田 和之
東松島市産業部	商工観光課 主任	手代木 昌幸
宮城県東部教育事務所	次長（社会教育主事）	松川 忠孝

【オブザーバー】

一般社団法人みやぎ工業会	ものづくり企業コーディネーター	飯盛 良拓
宮城県教育庁高校教育課	キャリア教育班 主幹	伊藤 裕之

【事務局】

東部地方振興事務所	地方振興部長	石田 政信
	地方振興部 次長（総括担当）	荒井 雅秀
	商工・振興第一班 次長兼企画員（班長）	猪股 秀樹
	技術主査（副班長）	豊川 高弘

3 参加者発言要旨

報告事項(1) 石巻地域の雇用情勢について(石巻公共職業安定所)

- ・ ハローワーク石巻管内の雇用情勢(令和元年11月)について。有効求人倍率は1.78倍と、2ヶ月連続で上昇している。求人数の増加や求職者数の減少に伴い上昇した。
 - ・ 月別の求人・求職の推移について。リーマンショック以前は、求人数が1.0倍に達しておらず、0.6倍から0.8倍程度で推移していた。リーマンショックの影響により、平成21年頃は0.4倍程度にまで下降した。震災以降は、復興需要の影響もあって上昇し、石巻管内では、平成28年度が1.89倍とピークであった。平成30年度の平均は1.68倍であり、県平均に近づいてきた。平成25年度以降は、1.6倍から1.8倍の高水準を維持している。また、季節性の変動として11月～3月は求人倍率が高くなる。これは年末にかけて臨時の求人が出てくるほか、年明け以降は4月に向けて役所関係等から3月頃に求人が出てくるのが主な要因である。4月以降は、定年退職者・契約期間満了した方等が求職を始めるので、求人倍率が下がる傾向にある。
 - ・ 求人・求職のバランスについて。求人が多いのは、保安警備、土木、介護サービス、輸送機械運転(トラック、タクシー等)、製品製造・加工処理となっている。事務的職業を希望する求職者数が多く、全体の23%を占める。パソコンを扱えない方も事務的職業を希望する場合があるが、この職種はパソコン操作できることが求められる。
 - ・ 令和2年3月卒業予定の高校生の就職内定状況について。求職者は昨年より50人程度多く、535人となっているが、仙台市内を希望する生徒が106人と、昨年より40人増加している。11月末現在で、石巻管内を希望する生徒の就職内定率は81.5%、仙台市内を希望する生徒は男子83.9%に対し、女子68.2%と女子の就職内定率が低い状況である。県外は89%である。9月に内定する割合は、近年上昇傾向にあり、今年は56%であった。半数以上が、9月16日の選考開始から、第1回目の応募で決まっていることになる。11月末現在における石巻管内の就職内定率は、全体で81.1%であり、県内で最も低い。女川高等学園等の支援学校の内定率は2月頃に上昇するため、現時点で問題視していない。
 - ・ 令和2年3月卒業予定の高校生を対象とした求人の受理状況について。11月末時点で、延べ900件となっている。近年は6～7月にかけて、求人票を提出する事業所が増加している。また、3月に向けて支援学校向けに求人が出てくるため、今後、求人数が増加する見込み。求人の業種別の内訳は、製造業(全体の29%を占める)、医療・福祉(病院の看護、介護関係、事務職も含む)、建設業(復興需要のピークを過ぎているがまだ多い)、卸売業・小売業(地元スーパー等)の順に多い。これらで全体の81%の求人を占めている。石巻の求人は、建設・製造業の比率が高いと感じているところである。
- (座長)月別の求人・求職の推移について。県平均では季節性の変動は少ないが、石巻地域で変動している要因は何か?
- (石巻公共職業安定所)水産加工業における臨時の求人が多いことが考えられる。

報告事項(2) 令和2年3月卒業予定者の就職内定状況について

① 石巻専修大学

- ・ 1月8日現在で、就職希望者217人に対し193人が内定を確保し、内定率は88.9%となっており、昨年度比+3.3ポイントと、高い水準で推移している。国の内定状況調査(12月1日現在)では87.9%となっており、本学とほぼ同水準である。本学の人間学部の学生が、本県の小学校教諭として内定を受けていることなど、公務員の内定実績も加わって高い就職率となっていると考えている。石巻地域への内定については、石巻商工会議所等から合計12人が内定を得ている。
- ・ 今年度の求人件数について。12月1日現在で、約1,200件の求人があり、前年度より70件程度減少している。減少した業種は、建設・情報通信・製造業等である。なお、石巻地域の企業から求人は40件程度である。

② 管内高等学校（出席各高等学校）

イ 宮城県石巻工業高等学校

- ・ 例年、本校では6割が就職、4割が進学しており、今年度も同様の傾向である。一次応募における就職内定率は92.5%と、昨年と同様に高い内定率となっている。
- ・ 県内企業への就職内定人数は昨年度よりも増加しているが、石巻管内では減少している。その原因として、生徒数が一番多い機械科において、例年、日本製紙(株)石巻工場を就職志望先にする生徒が多いが、今年度は求人がなかったことや、黒川地域にあるトヨタ系列の企業に複数の生徒が応募したことと考えている。今年度の特徴としては、1企業に複数人が応募する傾向があった。先輩社員の話を伺ったことから、そのような傾向になったのではないかと考えている。

ロ 宮城県石巻商業高等学校

- ・ 就職希望者は100人弱であり、全体の5割を超えている。昨年度よりも、10人程度就職者数が多かった。分類上は県内就職とされていても、就業地が石巻管内である場合もあり、本校においては地元就職が多数と考えている。現時点の就職未内定者は5人となっており、今後、継続して就職活動を指導する。

ハ 宮城県石巻北高等学校

- ・ 就職志望者は100人強であり、石巻地域への就職は60%以上である。本校は6割が就職、4割が進学となっている。公務員への就職は、宮城県職員（学校事務）、自衛官等である。就職未内定者は10人となっており、女子が多い。今月、就職未内定者向けにハローワーク石巻から就職活動のポイント等を説明いただいたところであるが、本校としても引き続き就職指導を継続していく。本校は、生徒の地元志向が強い高校であるため、進路指導によって地元定着率がより上がるものと考えている。

ニ 宮城県石巻北高等学校飯野川校

- ・ 就職内定者のうち、製造業が一番多く、次いでサービス業・介護・公務員・建築の順である。就職希望者12人のうち、9人が石巻管内に就職が決まっている。

ホ 宮城県水産高等学校

- ・ 就職・進学割合は、例年どおり概ね8対2である。石巻地域への就職は、就職希望者の約半数である。また、県外への就職者の割合が多いが、船舶の仕事を希望していることによる。未内定者数は7人となっている。
- ・ 今年度の特徴としては、石巻地域に就職した者のうち、いわゆる水産加工業を希望した生徒がいなかったことである。水産の流通・卸売関係、養殖等の他業種には内定しているが、水産食品加工を製造する会社への就職者はいない。

ヘ 宮城県石巻西高等学校

- ・ 卒業予定者約200人のうち就職希望者は25人であり、年々増加傾向にある。本校の就職希望者は公務員を志望する者が多い。この学年が1年生であったときから外部講師を招聘し、月に1回公務員講習を行ったところ、昨年以上に合格者が多かったため、その効果があったと捉えている。
- ・ 民間就職希望者のうち未だ1人が未内定である。卒業後に希望する仕事について、現時点でも本人が整理できていないため、話し合いながら指導していきたい。ハローワークでは、訪問時に助言いただき感謝申し上げる。

ト 宮城県東松島高等学校

- ・ 本校は、昨年度及び一昨年度同時期の内定率と比較しても、今年度は低い内定率となっている。

理由は2つ考えられ、発達障害の生徒またはその疑いがある生徒の入学が年々増加しており、そういった生徒が苦戦していること。もう1つは、就職に向けての一步が踏み出せなかった生徒が今年度は多かったことである。3月まで彼ら1人1人に声掛け、ハローワークとも連携し、1人でも多く内定を得られるようにしていきたい。

チ 石巻市立桜坂高等学校

- ・ 公務員に内定した4人の内訳は、自衛隊が3人・国家公務員の一般事務で労務局へ内定が決まっている。就職内定者数の内訳からも見て分かるとおり本校では、石巻地域への就職者が多く、今後も石巻を支えていく女性を育てていきたい。

リ 宮城県立支援学校女川高等学園

- ・ 本校は軽度の知的障害を持った生徒が在籍し、今年度は全員が就職を希望している。現在、入社試験の結果待ちという生徒も多い。なお、昨年度は全員就職した。
- ・ 本校は全寮制をとっており、本県全域から入学している。就職希望先は、全員が自宅からの通勤を希望しているため、就職希望地は石巻管内よりも県内を希望する者が多い。
- ・ 本校の場合は、現場実習（インターンシップ）を長期に実施し、3年生も数名が実施している。現場実習先に就労することを見越して、この後、内定率が大きく変わると考えている。

③ 石巻高等技術専門学校

- ・ 本校は、高卒者を対象とした自動車整備科・金属加工科・木工科の3科がある。自動車整備科・金属加工科は全員が内定している。木工科については、例年3月頃までに内定が決定する。自動車整備科は、ディーラーの本社が仙台にあるため、就職先として石巻管外に分類されるが、配属先は石巻支店の場合が多い。そのため、管内・管外の区分は統計上としての意味合いが大きいと考えている。金属加工科については、例年管内への就職が多い。職種としては、溶接関係及び機械加工等に就職している。
- ・ 本校独自に、就職3年後の調査を実施しており、離職率（定着率）を確認している。その結果、自動車整備科では数名が離職しており、その理由は、他の職種等に転職したいというマイナスイメージの転職ではなく、スキルアップのためとした部分が大きかった。金属加工科でも数名が離職し、理由には人間関係等もあった。全体としては、概ね3年以上、継続して働いている修了生が多かった。
- ・ 企業から、特に金属加工系では、技能を継承する後継者を必要としていると言われる。本校の金属加工科は、男性が活躍するイメージであるが、実際の企業では、火花が出ない溶接や、力作業が必要ない業務も多く、女性でも活躍可能であるとのこと。本校の金属加工科の在籍者は全員男性であるため、今後は女性向けにもPRをしていきたい。

質疑応答

石巻北高等学校

- ・ 各校におけるインターンシップ期間について。各校の実施日数をお聞かせ願いたい。本校では2日間実施しているが、3日間への延長を検討しており、参考までに把握したい。
- （各校回答）2日間：2校、2～3日間：1校、3日間：4校、4日間：1校、3週間×2回：1校

座長

- ・ 石巻専修大学の民間希望者の内定率について、機械工学科の内定率が低いが、要因があればお聞かせ願いたい。
- （石巻専修大学）要因は様々である。就活開始時期の遅れなど、多様な要因が重複している。未内定者については就職活動を継続しているため、大学としてもサポートしていきたい。

宮城水産高等学校

- ・ 石巻専修大学の卒業予定者260人のうち、何人位が石巻地域出身であるか？
- (石巻専修大学) 石巻地域の出身者は例年70人程度であるが、現4年生においては約40人が石巻地域の出身者である。このうち12人が石巻管内で就職内定している。

報告事項(3) 令和元年度における各機関の取組について

① 石巻商工会議所

- ・ インターンシップ事業について。石巻市内の大学・高校を対象に、会員事業所にインターンシップを仲介した。これまで高校から紹介できなかった事業所についても紹介できたのではないかと考えている。今年度の新規事業であるが、大学・高校の計5校の学生・生徒計136人について、延べ48社で受け入れていただいた。
- ・ 大学・高校の進路担当者との懇談会について。商工会議所では昨年度から雇用促進委員会を立ち上げている。就職状況の確認もしているが、インターンシップを通じて、地元就職・定着を目的としており、今後も継続して開催していきたい。今年度は2～3月に実施する予定としているため、担当者の方には御出席いただきたい。
- ・ 企業ガイダンスについて。インターンシップ事業の実施高校において、働くうえでの心構えや働く意義等について地元経営者から講師として御講演いただいたもの。
- ・ 小中学生の職場体験見学について。小中学校から照会があったときに情報提供している。
- ・ 接遇基本セミナーについて。新入社員として採用された新社会人を対象に、マナー・礼儀作法・接客等を学べる機会として3月末に実施している。また、労働に関するセミナーとして、企業を対象に働き方改革等の普及啓発を実施している。
- ・ ホームページによる情報提供及び企業ガイドブックの作成について。両方を合わせた形で、就職希望者向けに企業の情報発信ができるツールとして、企業PRパンフレットやホームページによる情報提供を検討している

② 女川町商工会

- ・ 女川商売塾について。小学校の児童を対象に商業体験を実施したもの。地域貢献を通じて、生活実学を学習するもので、勉強会11回及び出店2回の計13回を実施した。事業効果は、生活実学の充実及び将来を担う子供達の人材育成に貢献したことである。女川町では、令和2年度2学期から小中一貫校となるが、本事業は来年度も事業継続する予定である。

③ 石巻公共職業安定所

- ・ 5月に、求人説明会を実施した。管内企業113社を対象に、新規高卒者を対象とした求人申し込み手続き及び各種制度の周知を図った。また、高校教諭を対象に、就職対策連絡会議を開催した。
- ・ 6月から、高卒求人の受理を開始し、7月1日に企業に求人票を返送した。これ以降に、企業が求人活動を開始できるようになる。
- ・ 7月に、高校生のための合同企業説明会を実施した。参加企業67社、参加生徒308人であり、昨年度より20人程度増加した。第2部では高校教諭との懇談会を実施し、今年は企業が先生方のブースを訪問する形に変えた。企業側からは好評であったようである。
- ・ 9月に、各高校から推薦が開始され、各社による選考・内定が開始となる。
- ・ 10月に、未内定の生徒を集めて、合同企業就職面接会を実施した。参加生徒は32人であったが、少なからず内定を得た模様である。
- ・ 未内定の生徒への対応については、まだ決まっていない高校求人の説明や、そこに希望の職種がなければ一般求人、求職登録、検索機の操作説明を行い、就職への意識付けをしている。12月から3月まで継続して実施する予定である。
- ・ 12月に第2回の就職対策連絡会議を実施し、参加者が少なかった合同企業就職面接会の継続の可否も協議したが、翌年度も開催することとなった。

- ・ また、石巻市、東松島市、女川町及び石巻サポートセンターと合同企業説明会を開催したほか、石巻市と協働して、出張相談会を開催している。参加者は昨年より増加している。
- ・ なお、宮城労働局による若年層を中心とした求職開拓事業がある。県内3カ所で行っているが、イオンモール石巻等で出張相談会を実施した。30人が来所し、11人が職業相談を実施した。

④ 石巻市

- ・ 出張相談会について。ハローワークと協力し、昨年度から実施している。今年度は6月から3月まで市内4カ所において月1回の頻度で開催している。参加者は結構多く、実施して正解であった。
- ・ 合同企業説明会について。先ほどハローワークから説明があったものであり、石巻サポートセンターと協力して6月から開催しているが、徐々に求職者の人数が減ったこともあり、11月に県石巻合同庁舎で実施した。
- ・ 企業見学バスツアーについて。今年度新規の取組である。石巻市立桜坂高等学校と調整中で、3月上旬に実施予定としている。本会議において、就職にあたっては御両親の意見が重要との情報があったため、生徒のほか、保護者にも職場見学していただき、保護者目線による子供へのアドバイスがあれば、生徒が会社のことを考えるきっかけになるのではと考えている。現在、申込受付を開始したばかりであるが、2月中旬まで申込を受け付けるため、次回の本会議で報告できると考えている。

⑤ 東松島市

- ・ 高校生・大学生等への市内企業の情報発信について。若者の地元雇用に繋げることを目的に、東松島市の地元企業を紹介するPRパンフレットについて、今年度に作成し、成人式で配布した。掲載企業数を増やしたかったが、成人式に間に合わせる都合上、掲載企業数は10社となった。来年度も同様の事業を予定している。
- ・ 求職者等の就職相談会等について。ハローワーク石巻と共催で1月下旬に開催し、参加企業10社、求職者33者が出席した。最初に各企業からプレゼンした後、個別相談会を実施した。最後まで求職者が会場にいたことから、良い方法であったと考えている。
- ・ U I J ターン就職による人材確保支援について。首都圏在住者で、宮城県に移住を検討している方向けのフェアに参加した。移住者が重視する内容は仕事であるため、石巻圏域の求職状況を説明した。

⑥ 東部教育事務所

- ・ 小中学生の郷土愛を育てる観点で、ふるさと教育等で年間行事予定に組み込み、様々な体験活動に取り組んでいる。中学校であれば職場体験・キャリアセミナーとして、自校の先輩、職業人又は地元企業の話の聞き取組を実施している。女川町では小学校の取組が進んでおり、商売塾として職場体験に取り組んでいる。石巻管内では小中学校が64校あるが、全学校の各学年において、体験活動としてふるさと教育を実施しており、少しでも自分達の地域・街を愛し、地元で仕事をしたいという気持ちを育てている。例えば、東松島市の小学生においては、地元の水産業と連携を取り、牡蠣剥き・海苔すき体験を行うことで、地元を知る機会としている。女川町では商売塾が挙げられ、これらの活動は新聞にも掲載されている。

⑦ 東部地方振興事務所

- ・ 石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議について。石巻地域の産業人材の育成・雇用・定着の一層の推進に向け、産業・教育・行政の各機関の取組の情報共有及び意見交換を行い、有効な取組内容について検討するもの。今年度は7月に開催した。また、この会議の部会である石巻地域産業人材育成・定着推進会議について、今年度は6月と1月に開催した。
- ・ 産業人材育成・定着協働者ガイドの掲載事業所拡充について。地元企業・団体等におけるインターンシップや職場見学の受入、学校への講師派遣の可否等を掲載した「産業人材育成・定着協働者ガイド」をとりまとめるもの。現時点で165件まで拡充した。
- ・ 社会人講話の講師派遣について。高等学校等のニーズに沿って講師派遣を実施し、今年度は延べ

3校に計20人の講師を派遣した。

- ・ 企業支援セミナーについて。働き方改革実現に向け、ワーク・ライフ・バランスを取り入れ、雇用管理の視点から魅力ある職場づくりをテーマとしたセミナーを、2月中旬に開催する予定である。
- ・ 企業見学会について。今年度の新規事業として、石巻専修大学の学生を対象に、石巻地域への就職を促進するために、地元企業（計4社）の見学会を12月と2月に実施する。
- ・ 声出し・話し方セミナーについて。高校生を対象に、就職後の職場定着を促進するために、7月と11月に実施した。

⑧ 一般社団法人みやぎ工業会

- ・ 主にもものづくり企業及び高等学校を訪問し、就職指導及び就職支援・連携CDの先生方を対象に活動している。企業及び学校を訪問し、それぞれの情報共有・連携を図るほか、地元雇用・職場定着を促進している。今年度の企業訪問については、東部地方振興事務所の職員にアポイントを取っていただき、原則一緒に訪問している。現時点で36社を訪問している。
- ・ 企業見学会について。管内高等学校の進路指導部の先生方・連携CDの先生方を対象に企業見学会を実施している。また、今年度から、保護者の方を対象に、PTAの研修会という位置付けで実施した。今後も継続して他の高校でも声がけをしたいと考えているため、よろしくお願ひしたい。

意見交換

座長

- ・ 本会議では、人材の育成・雇用・定着ということで対象が幅広であるが、人手不足が喫緊の課題であることを受け、意見交換のテーマとして、事務局で管内の高校生及び大学生の地元就職の促進とさせていただきます、論点を整理した。
- ・ 先ほど、各機関から今年度の取組を御説明いただいたところであるが、高校生等の対象者毎に整理したほか、県庁各課が石巻地域で実施した取組（ミライブラリー、経営者向けの採用又は職場の環境整備に係るセミナーの開催等）を整理した。これらを踏まえ、管内の高校生・大学生の地元就職をより一層促進するため、考察を4点整理し、これらの取組を更に拡充・実施していく必要があるのではないかと考えている。
- ・ 1点目は、就職希望先が具体的に決定する前（高校1、2年生及び大学1～3年生）における企業見学会や合同企業説明会等。基本的には、高校3年生向けの取組は当然多いが、就職の希望先が決定する前の高校1～2年生・大学1～3年生に対する働きかけが必要ではないか。
- ・ 2点目は、石巻専修大学の地元就職希望者に対する個別支援。1学年の地元出身者は約40人ということであるが、別の会議で、地元就職の希望者はその2倍位と伺ったことがある。しかし、最終的に石巻地域に就職するのは十数名である。何らかの理由で、就職活動の途中で、地元就職を断念する状況があると伺っている。大学としても就職先の紹介をされているのであろうが、早い段階で地元就職を希望する学生にアプローチすることで、行政あるいは商工団体と連携し、企業との繋ぎ役を濃密に、個別的に取り組ませていただき、1人でも多くの石巻専修大学の学生が地元に残っていただくように考えている。
- ・ 3点目は、生徒・学生の就職先の決定に大きな影響を持つ保護者に対する情報提供や企業見学会等。本年度から石巻市で企業見学会を取り組まれているが、保護者が就職先の決定に大きな影響を持つため、企業見学会あるいは保護者向けの情報提供を強化すべきではないかと考えている。
- ・ 4点目は、企業による情報発信や高校・大学との関係の強化、待遇、労働環境等の改善。行政や商工団体がどれくらい関わられるかは分からないが、企業の自助努力ということで、企業が積極的にPRする、個別に高校・大学と関係を強化する、又は魅力的な企業になることなどが今後必要ではないかと考えている。
- ・ 事務局としては、以上のように考え整理したところであるが、御意見や質問、より良い取組について、特に学校側から行政・商工団体・企業側への希望等についてありましたら頂戴したいと思います。ですが、いかがでしょうか。

石巻北高等学校

- ・ 企業見学会について。本校も1年生において、宮城県内企業を中心に実施しているが、石巻地域の事業所を見学先に増やしたい。そのため、見学可能な企業の一覧データがあると、現在年間計画を組んでいるところであるため幸いである。可能であれば、来年度、石巻市内の企業を増やして計画を立てることが可能となるため、情報をいただきたい。
- (座長) 企業見学会は、どういうまとまりで実施されるのか。
- (石巻北高等学校) 1学年の全生徒を対象に実施しており、今年度は6コースに分けて、企業と大学を見学した。当日は、1日かけて企業1社と大学1校を見学する。
- (座長) 行政や商工団体等から提供可能でしょうか。
- (石巻市) 本市としては、現在企業との付き合いを強化していくことを始めたばかりで手探りの状況である。何社か御相談している中で、今回の見学先である2社を選定したところ。他にも候補企業はあるが、企画の内容、タイムスケジュール、対象人数等の部分で調整が必要になると思う。まずは、最初の入り口部分、受け入れ可否のリストについて、未整備であるが、市としても地元就職を進めていきたいので、データベース作成について課内で協議したい。
- (座長) 東部地方振興事務所についても、工場見学会・社会人講師等に御協力いただける企業ということで、産業人材育成協働者ガイドを作成し、各高校にも配布しているため、それを参考にさせていただきたい。また、行政の方で何か提供できるものが手持ちであるかは、確認の上、高校に情報提供させていただきたい。

石巻信用金庫

- ・ 本日、各機関の取組の説明を受け、当金庫は取組に参加させていただいている立場と考えている。独自の取組としては、高校生の皆さんを対象に、職場体験として夏に実施している。今、高校の先生方からインターンシップの日程等について、3日間実施すると企業の負担が大きいと伺った。受け入れる企業の立場からすると、企業によっては全学校の各参加者(例えば3人×10校)を同時に受け入れ可能かという問題はあるが、企業にも準備の都合があるため、私としてはある程度学校にまもっていただき、学校間で垣根をまたいで取り組むのも一つの方法と考える。
 - ・ また、やはり企業を知るということは大事と考える。いいところだけではなく、働く上での厳しさも話させていただいている。体験だけで、どこまで知っていただけるかが、我々企業側としても今後の課題と考えている。是非、学校側でそういったまとまりも検討された方が良いかと思ったところです。
- (座長) 石巻信用金庫であれば、一度に何名くらいの生徒を受け入れ可能か。
- (石巻信用金庫) 会場的には20~30人が可能。ただし、説明の深度は浅くなってしまう可能性がある。極端な話ではあるが、3日間受け入れを10回に分けると、企業側も厳しいのではないかと考えている。
- (座長) このあたりは石巻商工会議所で調整可能でしょうか。学校側が協議するのは難しいかと。
- (石巻商工会議所) 当会議所においてインターンシップ事業を実施したところであるが、その流れは、最初に派遣する学校から実施時期を伺い、その時期が確定した段階で、企業に受け入れの可否を問い合せ、受け入れ可能な時期だけを提案いただき、学校にフィードバックし、学校からの依頼に基づいて、各企業に受け入れを依頼している。
- ・ 学校側の日程が第一優先であるため、学校によって日程にバラツキがあるのは、学校毎のカリキュラムの違いがあるので、商工会議所から、何月何日に実施してくださいとは、学校には提案が困難な状況である。
- (座長) 石巻信用金庫の御提案は、貴重な御意見ではあるものの、実施は難しいのではないかとこの状況です。しかし、せっかくの御提案ですので、宿題ということにさせていただきたい。

座長

- ・ 石巻市のバスツアーについて。今年度は未実施であるが、来年度における拡充等の予定はござい

ますか。1回目を実施してからということでしょうか。

→(石巻市) 今回、実施させていただき、いろんな反省点があると思われる。それを踏まえて良かった点、悪かった点を見直し、新しい形で実施をするとしたら、例えば他校への依頼等について検討したい。それ以外は未定である。

座長

- ・ 石巻専修大学の地元就職希望者に対する個別支援について。大学から何か御意見ありますでしょうか。
- (石巻専修大学) 来年度、企業見学会の継続について打合せをさせていただいているが、来年度も企業見学会は継続される見込みでしょうか。
- (座長) 現在、予算要求の最中であるため、現時点では未定であるが、1年限りでは意味がないので、当事務所としては継続の要求をしている。
- (石巻専修大学) 大学においても、来年度に向け、ガイダンスやキャリア教育について見直ししていないといけない。そのなかで、東部地方振興事務所の企業見学会、商工会議所のインターンシップ事業については、できれば地元就職希望者に絞って取り組むのではなく、ある程度ガイダンス的なところで、地元で就職しているOBに来てもらって、自分の会社を説明してもらったり、そうした流れの一環で会社を訪問するなど、その際に東部地方振興事務所の事業を活用させていただいたり、状況によってインターンシップに繋げていく。そうしたプログラムの一環としての位置付けにすることで考えていきたい。来年の予算の見通しが立った段階で、改めて、大学としての考え方、企画としてその枠を開けておくとか、検討できればと思っている。そういう形でも我々として協力していきたい。
- (座長) 分かりました。お互いに協力しながら、一番効果的な方法について、御相談させていただきたい。

座長

- ・ 保護者向けの企業見学会について、みやぎ工業会から、今年度実施された手応えや感触についてお聞かせ願いたい。
- (一般社団法人みやぎ工業会) 2社のものづくり企業において見学会を実施したが、保護者からは好評であった。地元に見学先のような良い企業があることを知らなかったという、驚きの声をいただいている。先生方からも、このような良い企業を初めて知ったとの声をいただいている。特に保護者の方からは、毎年このような見学会の継続の希望を伺っている。
- (座長) 非常に有効な取組とのことでありましたので、石巻市でも取り組まれています。強化する必要があると考えている。当然ながら高校の御協力もいただくことになるかと思えます。また、地元企業としても、行政側も努力はしているが、企業側による情報発信を強めていただくために、そのための働きかけをしていく必要があると考えている。

石巻市

- ・ 本市で実施する企業見学会について。来年度に御興味がある高校はございますか。
- (石巻北高等学校) 本校は興味があります。

一般社団法人みやぎ工業会

- ・ 提案となるが、企業側が来る者を待つのではなく、企業側が学校に出向いてプレゼンするなどの仕組みを作り、学校側に協力いただいて、誰が音頭をとるのが良いのかは別にして、そういった仕組みを作ってはどうか。そして見学会に結びつける。実際、どのような現場で働いているのか、自分がこういう現場で働きたい、ここは駄目だなとか実態を知っていただく。そういうことを考えていかないと、これから高校生の数が毎年300人減少していくという現実があるので、皆さんで知恵を絞って、地元の企業を理解していただければと思う。

座長

- 今回このような形で各機関の取組を整理させていただいて、考察として課題提起をさせていただいた。時間が少ない中、貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。今後、今回の会議資料を参考にいただき、各機関で個々の取組を御検討いただくとと思いますが、できれば来年度は早い時期に開催させていただき、各機関における来年度の取組が決まっているでしょうから、互いに情報提供しながら、連携した取組の可能性等について具体的に議論していきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

以上